第２３期　国立市社会教育委員の会（第５回定例会）会議要旨

令和元年９月３０日（月）

［参加者］苫米地、西川、石居、富田、佐々木、江角、倉持、笹生、丹間

［事務局］伊形、井田

西川議長　それでは定刻になりましたので、５回目の国立市社会教育委員の会を始めたいと思います。皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。

涼しくなりましたねと言おうかなと、けさ思っていたんですけど、きょうは結構暑い日でした。

５回目にしてようやく全員そろうかなと思っていたんですけど、きょうは急遽、根岸委員が欠席ということで、このメンバーで始めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

まず最初に、事務局からきょうの資料確認をお願いします。

事務局　では、資料の確認をさせていただきます。

まず、本日、第５回定例会の次第でございます。

資料１といたしまして、「「生涯学習情報の集約・発信事業実施」報告の進め方」というものでございます。

資料２といたしまして、「令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第２ブロック研修会の開催について」の通知文でございます。

その他の資料といたしまして、前回、第４回の議事録、「公民館だより」、「図書室月報」、「いんふぉめーしょん」、「とうきょうの地域教育」をお配りしております。

それと、前回、第４回定例会の資料２をお持ちいただきたいということでメールでお伝えしておりますが、もしお持ちでない方がいらっしゃいましたら、余分がございますので、挙手いただいてもよろしいでしょうか。

資料の配付漏れはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

西川議長　ありがとうございます。

それでは、きょうの議題に移りたいと思います。きょうも、前回に引き続いて「学習情報の収集・発信について」というテーマで、議論を進めていきたいと思います。

最初に、前回欠席された笹生委員と石居委員、お二人からは資料を出していただいておりますので、まず最初にその資料のご説明をお願いしたいと思っているんですけれども、よろしいでしょうか。その後、資料１の議論に移っていきたいと考えております。

まず笹生委員から、前回の資料２に従って、ご説明いただければと思います。

笹生委員　まず、前回は欠席してしまって申しわけありませんでした。

前回の資料２の１２ページ、１３ページ、１４ページが私の資料になるかと思うんですけど、あくまで私はスポーツ社会学という学問をやってきただけの、人生経験もない人間ですので、あくまでそのスポーツ社会学といった分野で、こういう問題はどういうふうに議論されるかということの情報提供というつもりで、資料を作成させていただきました。

お読みいただいた方もいらっしゃると思うんですけれども、私も結局、前回の議事録を拝見しても、ほとんど問題意識は一緒だなと思いましたので、あまり大きくつけ加えることはないんですけれども、やはり私としてはホームペー

ジを情報のベース基地にするということを提案したいなと思っておりましたし、前回の議事録もそのようになっていたと思います。

そこになかった、私が書かなかった意見として、膝を叩いた点として、どういう情報を入れて、入れないかという多様性みたいなものが非常に重要だということが、たしか富田委員などからあったと思うんですけれど、そこは私の観点になかったので、今後非常に重要だなと思いました。一方で、どの情報を入れるかということでいうと、何を生涯学習情報とするかという、再定義みたいなものも必要になっているのかなという気がしています。

もう１つ私が書きたかったこととして、ホームページをベース基地にするというのはいいとして、じゃあ、情報が届いていない人にどうやってリーチするか、特に１８．９％をターゲットにしたいというのは全くそのとおりだと思いますし、じゃあ、どうすればいいかというときに、私が書かせていただいた案としては、ＳＮＳとかメール配信、口コミ、そういったものが必要かなと思います。

特に、その中でも少し書かせていただきましたけれど、ホームページを前提にするということであれば、やはりスマホで、今はもうパソコンというよりもスマホで情報に触れる人が多いと思いますので、スマホで見やすいようにするというときには、やはりＱＲコードを活用するというのは、一つ手かなと思います。私はスマートフォン、ｉＰｈｏｎｅを使っているんですけれど、ｉＰｈｏｎｅは数年前から、専用のアプリを立ち上げなくても、カメラの画面をかざすだけでＱＲコードが読めるようになっています。若い人にとっては非常に親和性のある手段かと思います。そういったことも必要かなということで、提案させていただきました。

私の提案した意見ではないんですが、議事録を読んでのただの意見なんですが、やはり親しみやすさと炎上なり、乗っ取りなりのリスクの間をどうとるかという、極めて難しい問題だなと。正直私なりの意見というのは、ちょっと出てこないんですけど、ただ一つ言えることは、１８．９％の人にリーチするのであれば、一々課長の決裁をとっているような体制では無理だろうなと思います。ただ、それではノーチェックでいいのかという別の問題が生じますが、やはりもっとフットワークを軽くできるといいんじゃないかなということを、前回の議事録を見て感じました。

以上です。

西川議長　ありがとうございました。

では続いて、石居委員にお願いいたします。

石居委員　僕も前回の議事録を拝見する限りは、同じ、特に目新しいことを私自身が言っているということではないなというふうに思いますし、書いている中でもそう思っていたところはあるんですが。

このときの問題意識の前提にあるのは、最初の会でお話ししましたが、私自身が前の職場は博物館の学芸員をやっていて、今も他大で学芸員課程の授業を担当したりしているんですが。博物館というのも非常に情報が縦割りになって、うまく伝わってこないといいますか、生涯学習全体に比べると、博物館の業界というのは、自治体とかではなくて全国を網羅するような博物館の活動にかかわるポータルサイトって、割と幾つもあるんですけれども、それがどれも、リンクする入り口まではつくってあるんですけど、その先の情報が各博物館によって更新されていないために、そのポータルサイトにアクセスをしても何も新しい情報が手に入らないんですね。なので、枠はできているんだけれども、中身がない。で、結局どれも、どこかには手が届いていて、どこかには手が届い

ていないという、帯に短したすきに長しという感じで。
結局博物館も同じように、情報をどう発信するのか、届けるのかっていうのが課題になっているにもかかわらず、やっぱりその課題は解決できないまま来ているということを痛感してきましたし、授業の中でもそういう話をして、レポートの課題などでその解決策があればということを聞いたりもしているんですが、なかなか、やっぱりうまくいっていないかなというところがあります。そういうことが前提の問題視としてありました。
いただいた宿題に答える形でいえば、市のホームページというところでいうと、ポータルサイトを少なくとも市のレベルで立ち上げるということが必要かなと思っていまして、そのようなものがないだろうかと、都道府県レベルは割とあるんですが、市区町村レベルではどうかなというふうに見ると、東京都内だと荒川区、あと目立つところでは旭川市とか長野県の須坂市、千葉県の銚子市といったところがあって。十分にできているかというのは検証できていないんですけれども、やることはできるのかなと思いました。
その上で先ほどのお話と絡めると、情報をきちんと小まめに更新する、箱だけつくって中身がというのでは利用者としても結局使えないものになってしまうので、そこをどれだけ、さっき笹生さんがおっしゃった決裁の問題なんかもそうだと思いますけれども、どれだけ柔軟に、まめに更新できる体制をできるかということが大事なんじゃないかなと思います。
あと、これは全く今回いただいている諮問の範囲を超えますけれども、最終的に僕は市が直接主催や共催にかかわるもの以外でも、市にかかわる生涯学習情報は、ここに行けばある程度わかるんだというサイトに育っていってくれることが、理想的かなというふうには思っています。
あと、ＳＮＳの活用という２番目のところでいうと、これは基本的には１をつくることを前提として、１に更新情報をまずは発信していくというところだろうということと、もう１つは私自身がかかわっているＮＰＯでやっていることなんですけれども、例えば長い期間の展示であるとか、連続の講座とかの催しのときには、１の情報というのは始まる前にこういう催しがいつからありますという情報発信になると思うんですけれども、ＳＮＳのよさは、始まってからその具体的な展示の様子とか、反響とかを発信することができたり、１回目の講座が終わったときにその様子を発信することで、定員になっていなければ２回目から入ってくれる方が出てくるとか、そういうところだと思うので、その辺を１に加えていくようなイメージです。
それから３番目の冊子、パンフレットは、インターネット弱者への情報発信というところを一番に置くのと、もう１つはいわゆるインターネット型の情報発信の弱点として、自分が求めている情報に一直線にたどり着ける、その反面、意図せざる出会いというのがどんどん削がれていっているということなのではないかと思っていて、そういう点では本当に今あるアナログ式のやり方ですけれども、リーフレットをきちんとつくることと、それをどこか空いているスペースにポンと置くというよりは、より積極的に手にとってもらえる出会いのツールにしていけるような、つくり方というよりは多分配置の仕方なんかの工夫が必要かなと思いました。
あと職員間での情報共有は、多分職員用のポータルサイトがあるんじゃないかと思うんですが、そこには各部署で出している情報などというのは常にリンクができるようにしておいて、担当部署でない方でも、今どういう情報が生涯学習情報として発信されているのかということに、触れられるようにすることが大事なのかなと思いました。
書いてあることの繰り返しですが、一応そんなことを意図してつくりました。
以上です。

西川議長　どうもありがとうございました。

今の笹生委員、石居委員のご意見に対して、ご意見、コメントがある方がいらっしゃれば伺っておきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは次の話に移りたいと思いますが、事前にメールで、きょうの資料１と題しているペーパーなんですけれども、配らせていただきました。前回いろいろと議論した中で出てきた意見をまとめると、こういうことになるのかなという形で、羅列しているものです。ごくごく簡単に書いているので、１行にまとめるようにしていますから当然、これじゃ伝わらないというようなところもあるかと思いますけれども、それは後から伺うとして。

このように分けた意図なんですけれども、グループを３つにしてあります。最初の「○」は、今情報を得ていない人たちにどうやって得てもらうか工夫する、これが１つ目のグループです。

２番目の「○」は、ホームページなどで情報を得ている人・不十分な人にわかりやすく伝える工夫。前回もイベントカレンダーの話などが出ましたし、ＳＮＳなどの手段の話も出ましたけれど、情報は得ているんだけれど、それが見づらいのでなかなか伝わっていない、この人たちをどういうふうにするのかという問題ですね。最初の「○」は、そもそもアクセスしていない人、２番目はアクセスしているんだけど不十分なので、十分恩恵を得ていないだろうと思われる人たち、それを縦割りして、意見として羅列したものになります。

もう１つ、３つ目にあらかじめ確認しておきたいことということで、ずらずらっと書きました。

前回出てきた意見の中で、そもそも確認をすることによってある程度議論の幅を狭めることができるんじゃないかと思われることを、ここに書いてあります。予算・資源、枠組みの問題とありますけれども、ここでは予算というのがどのぐらいのレベルで考えておけばいいのか、この辺はあらかじめ確認しておいたほうが、無駄な議論をしなくてというか、より現実的な議論ができるんじゃないかということで、ここに書きました。この辺はこれから、事務局に説明していただきたいと思っています。

それと、生涯学習ホームページに含む範囲の確認というのも、２番目に書きました。生涯学習のホームページを見直すというのが我々のミッションなんですけれども、じゃあ、果たしてどこまで見直していいのかどうなのか。既に公民館とか図書館とか、ホームページができ上がっているところもありますし、どこまで改編することが現実的な問題として可能なのかどうなのかということも、ある程度イメージをつかんでおいたほうが議論がスムーズに行くんじゃないかということです。

３番目は、ホームページ、ＳＮＳについての現在の運用指針と書きましたけれども、前回の議論の中で富田委員から、ユニバーサルデザインとかセキュリティーの問題ですね、このあたりが提起されましたけれども、今の国立市のホームページにしたって、それがないわけでもないと。であれば、まずはそこを確認した上で、もしそれが不十分であればそこから先に進めばいいし、それで十分だろうということであれば、それはそれでオーケーとするということをまずやったほうがいいだろうということで、このように書かせていただきました。

「○」を３つ書きましたけれども、最初に一番最後の「○」、あらかじめ確認しておきたいこと、ここについて事務局のほうで調べていただいていますので、まずご説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

事務局　事務局でございます。資料１の１ページの下、今、議長からお話がありましたとおり、あらかじめ確認しておきたいことというところで、予算・資源、枠

組みの問題というものがございます。①、②、③とございまして、少しまたがるところもありますけれど、おおむねこの３つに分けて、ご説明させていただければと思います。

まず①に関して、主に予算の話になってくるのかなと思います。ちょうど今、各担当課で、どんな予算を来年度使いたいかという予算編成を行っている段階になっております。それを査定の部署、国立市の場合、政策経営課となるんですけれども、提出しまして、政策経営課のほうから担当課にヒアリングがある中で、予算がつく、つかないというところが決まってきます。

今回、まだ結論が出ていないので、予算がかかる事業になるのか、一方で予算がかからない部分も出てくるかもしれないんですけれども、今回の結論に基づいて事務局で少し考慮させていただいた上で、予算要求をしていくようになってくるかなと思います。その上で予算がつくかどうかというところになりますと、政策経営課のヒアリング、市全体としてどれだけ支出に使っていいかというところもございますので、その枠の中で決まっていくことになりますので、正直、予算がつくかどうかはわからない、現状では何とも言えないところになります。

当然高額になればなるほど、つきにくくなっていくのが自然にはなっております。一方で、予算がつく可能性を高めるためには、その必要性、こうで、こうで、こうだから必要なんだというところを示していくことによって、きっちり説明したから必ずつくとも言えないんですけれども、可能性を高めることはできるのかなと思っております。

一方で、予算がかからないものであっても、人手がものすごくかかってしまうのであれば、人件費という見えないコストが発生しますので、予算がかからないとスタートしやすいのかもしれないですけれども、やはり事業のやりやすさは重要になってくるのかなと、あわせて思っております。

続いて、②生涯学習ホームページに含む範囲の確認というところで、少しお話しをさせていただければと思います。まずホームページですけれども、市長室の広報広聴係というところが、ホームページ全体の統括をしている部署でございます。ですので、全体のくくりというところは広報公聴係が決めておりますので、ホームページ全体に係る改修となってくると、なかなか難しい部分はあるのかなと。もちろん可能性ゼロというわけではないんですけれども、ハードルとして高いというふうには考えております。

その中で、ホームページの各ページですけれども、トップページの新着情報というところですとか、先月もお話ししていましたイベントカレンダーなど、一部門を除きまして、ページごとに、例えばこのページは生涯学習課、このページは公民館、このページは図書館と、それぞれ編集できる権限が決められております。ただ例外としまして、１つのページを複数の課で編集できる権限を持たせることは、可能にはなっております。一方で、それがあまり乱立してしまいますと、どちらの課が編集したかわかりにくくなってしまったり、管理責任ということで、複数の課にまたがってしまうことの課題はあるのかなと思っております。ですので、あくまで例外ということで考えないのであれば、それぞれのページごとで１つの課が編集しますので、生涯学習情報として生涯学習課、図書館、公民館、ほかの課を含めてそれらを集約して、１つのページで紹介するとなった場合、取りまとめは生涯学習課でやるということになりましたら、うちの課で情報を取りまとめてホームページにアップしていくというふうになるのかなと考えております。

続いて、③ホームページ、ＳＮＳについての運用指針ですけれども、国立市のホームページの中でもご紹介させていただいているんですけれども、国立市のウェブアクセシビリティー方針というものを定めております。その中で、高

齢者ですとかしょうがいしゃの方にも見やすいホームページということで、ＪＩＳ規格に基づいて、細かいところを話しますと長くなってしまうんですけれども、日本産業規格の基準に沿った形で作成しております。ですので、ある程度といいますか、それなりの基準で、高齢者、しょうがいしゃにとっても見やすい形で、ホームページはつくられているものとなっております。

説明は簡単ですが、以上でございます。何かありましたら、この後ご質問でいただければと思っております。

西川議長　ありがとうございました。

①の予算の話と②の生涯学習ホームページにどこまで含めるのかという話は、予算はそれは投入できないこともないけれども、よほどの事情がない限り難しいし、ホームページも全体を大きくがらっと変えることもできるかもしれないけれども、よほどの条件がそろわないと難しいだろうと。簡単に言えばそういうことでよろしいでしょうかね。

予算については、前回のときにも、この前の期の議論の中でも、予算に制約があるという話も出ていましたので、ここはよほどの、どうしても押していけるような特別な理由でもなければ、それほど投入しないでやっていくということを基本的に考えていくのが、普通なのかなという感じが、私はしたんですけれども。そうはいっても、社会教育委員は教育委員会に出ていろいろな発言もできる立場でもありますから、もっともっと積極的に進めるべきだというようなご意見がもしあれば、いただければと思います。いかがでしょうか。

事務局　事務局から補足です。今、議長のお話ですと、予算がなるべくかからないようにとも聞こえてしまったんですけれども、どんなことをやるのであっても、よほどの予算がかからない事業以外は、基本的にはお金がかかってくるものになりますので、私が申し上げたかったのは、いただいた結論を例えば予算要求として政策経営課に上げさせていただいても、必ずしもつくとは限らないよというところを申し上げたかったので、予算を回避するような結論に導くまで、そこまで強く意識し過ぎてしまうとと思っております。ちょっとトーンが難しいんですけれど。

西川議長　そこの加減ですよね。どういう提案、つまりあまり現実的でない提案をしてもあまり意味がないんじゃないかというふうにも思いますし、前回の２２期で、いろいろ議論したことがそのまま反映されていないようなことも、あったように聞いていますから。あまり反映されないようなことを出して、やっぱりだめでしたということでも、意味がないんじゃないかという気が、私なんかはするんですよね。つまりある程度現実路線で行くのか、それとも予算がつかないかもしれないとわかっていながら、出していく路線で行くのか。

どうですかね。この辺は皆さんのご意見をお伺いしたいと思いますけれど。

倉持委員　倉持です。国立市としては、前の期で生涯学習の推進計画について答申しましたけれども、初めて市としての計画を立てて、それで何か、計画を立てたから大きな事業をやるというわけでもないんですけれども、新しい事業を提案するには、その根拠となる新しい計画が立っているということなので、十分こういったものを申請する、立ち上げるタイミングではないかなとは思います。

お金があるから新規事業を立ち上げるというよりは、必要があるから立ち上げるんだと思うので、少なくとも生涯学習の情報に関する必要性というのは、かなり論じられてきていると思うので、そのあたりのことは十分示せるのかなというふうにも思います。それがどのように、配分されるかどうかというのは

また別の問題かなと思うんですけれど。

西川議長　要するに、お金云々よりもまずは中身をきちんと議論をして、で、出していくべきだろうと。

倉持委員　そうですね。提案の中身、もちろん具体的に提案を出したからといって、措置してもらえるかどうかはわからないですけれども、少なくともホームページやウェブサイト、ＳＮＳ、イベントカレンダー等についての意見を少し取りまとめて、こういうのって集約したほうがいいんですかね。それとも、これかこれみたいな感じの出し方というのもあるんですかね。

事務局　これかこれというのは、例えば予算がたくさんつくのであればこれ、つかないのであれば……。

倉持委員　それもあるんですけど、前回の議論で、今日のご意見にもありましたけど、新しい生涯学習のサイト、ポータルをつくったほうがいいという意見と、既存の国立市が持っているイベントカレンダーをもっと充実させたほうがいいという意見と、印象に残っているのはそこだけなんですけど、それを両方やろうという意見よりは、どっちかやったらいいんじゃないかみたいな話だったかなと覚えてるんですけど。両方できたら、それは両方あったらいいんですかね。ちょっとわからないですけど。

言いたいのは、１つの提案にしたほうがいいのか、これとこれとこれがあったらいいんですけどねという提案にしたほうがいいのかということです。

それを議論すればいいんですかね。

西川議長　まあ、そうですね。それは議論していけばいいんじゃないかと思いますけれど。

お金がかかるという意味は、私、前回ちょっとペーパーを書いた中で、ホームページのいろいろな工夫というのは、専門のコンサルに頼んで、どこかマーケティングの専門家に頼んでやったらいいんじゃないかなんてことを提案というか、ペーパーに書きましたけれども、それをやると当然かかってくるわけですよね。だから、それをやると、きっと予算は通らないのかなと。

そうなると、我々社会教育委員で、社会教育の中ではもしかすると詳しい人もいるかもしれないけど、社会教育委員の属性でもないようなところで、むしろマーケティングの専門家のほうがいいかもしれないような意見を、この会議の中で出していくようなところまで、やっていったほうがいいかどうかということなんですよね。だから、もしあまりお金をかけないでやるのであれば、まさに社会教育委員という属性だけで、専門家じゃないけれども、ああいうページがいい、こういうページがいいと、ある程度技術的なところも含めてやっていけばいいと思います。任せるのであれば外に任せればいいと思うんですけれども、任せるとなれば相当かかるかなと。

それとは別に、倉持委員のおっしゃるのは、あまり最初から予算を意識するんじゃなくて、どういうものを提供するべきなのかということを、最初から考えていって、その結果として予算が掛かるなら掛かるでいいんじゃないかというご趣旨だと思います。

事務局　今、倉持先生お話しいただいたとおりでありまして、予算がないということを前提条件で話してしまうと、そもそも枠が小さくなってしまうので、今、幾つか提案される内容につきましては、例えば一番上でこういうことをやりたい、

さらにできれば具体的に、こういうことですよというのまであると、予算を考えていく上で我々としても、例えばこういうことに関してはプロにお願いしなきゃいけないことなのか、それとも自分たちでできることなのかという細分化ができるんですね。

その部分については、皆様が考えていただいたところの結果に向かうためのプロセスを、お金をかけてがっちりやるのか、それとも自前でもどうにかやることができるのかというのを考えるのが行政のやり方だと思っていますので、こういうことをやって、ホームページを改善してほしい、改善する方法としてはここだよねというのが示されていれば、その間といいますか、その間にお金を発生させるのか、させないのか、もうちょっと安くできるのか、高くかかるのかというのは、我々行政のほうでも検討できるのかなと思っています。

あと、複数出していただくのがありがたいなと思うことは、例えば今みたいにブレークダウンできなかった、絶対にこれはシステムにお金かけなきゃ無理だというものだったとすれば、そこまでは望めないけど、もうちょっと違う方法もあるよねというのがあれば、そういったところでもまた検討ができるというふうになって、言い方は悪いけど、上から順番にどんどん検討がしやすくなっていくということになります。最初から一番上のＡでこれしかだめだというふうになってしまうと、予算の段階で切られてしまう。つまり検討することすらできなくなっちゃう気がしますので、できれば幾つかのパターンがあり、さらにこういうことを求めてやっていくということを検討したいというのが、社会教育委員の中で考えていただきたいところかなと考えております。

西川議長　わかりました。

ご意見は、いかがでしょうか。

丹間委員　丹間です。今、いろいろお話を伺っていまして、私も少しはっとさせられたことがあったんですけど、やはり予算をとっていただくとか、確保していくというのは、方法論といいますか、方法だと思うんですけれども、先ほど西川議長も技術的な部分を含めて議論するかどうかとおっしゃって、確かにそうなんです。やはり前回のまとめなんか見ますと、どうしても方法論中心になっているから、つまり何のためという目的の部分の議論をしてもいいんじゃないかなと。つまり、今、情報を得ていない人に、情報を得てもらうのがなぜ必要なのか。要らないというふうに思っているかもしれない人たちに、でも必要だよということで情報を届けようとする方法を考えているわけですけれど、なぜそれが必要なのかという目的の部分を一緒に考えていく。その目的を我々がはっきりさせることが、方法としての予算確保とか、そういうことの支えになっていくかなというふうに、お話を伺っていて思ったので。

確かに方法のところをかなり、前回議論していたんですけど、目的を見失わずにその方法も考えていくという形でいきたいなと思いました。

西川議長　どうもありがとうございました。

目的、方法のところを考えるのは、このペーパーの上の２つの「○」の議論だと思いますので、そちらでまたやりたいと思います。ありがとうございます。

とりあえず、予算については最初からどうこうということをあらかじめ決めたり、そのことによって提案を引っ込めたりするということではなくて、社会教育委員として考えられそうなことを幾つか提案すると。複数あれば、当然その中で採択されるものもあるでしょうし、そうじゃないものも出てくるでしょうけれども、幾つか提案するということでどうでしょうか。では、予算についての議論は、終了したいと思います。

それと、生涯学習ホームページに含む範囲の話ですけれども、これも同じで、全体をもし見直すという意見になったとすれば、それも提案として出していくかもしれないということで、考えさせていただければと思います。

③、ユニバーサルデザインやセキュリティーに配慮するべきだということについては、先ほど事務局から説明がありました。この点については、富田委員はいかがでしょうか。

富田委員　市のホームページのアクセシビリティー方針というのを存じ上げなくて、申しわけありません。ユニバーサルデザインについては、恐らくやっていらっしゃるだろうと思うんですね。私も少しそういう面で出版物を出すときに考えたりしていたので、そんなに気になるところはないので、色弱の方とかというのも……。

それと、例えばぜいたくを言うと、ホームページだったら音声発信ができるようになるとか、思いついて言ってみたんですが、そこまではもちろん、なかなかやってらっしゃらないし、難しいと思いますけれども。今、どうなんでしょうね、一般的に。というところはちょっと調べないと、ほとんどやっていないだろうと思うんですが。ユニバーサルについてはそうです。

セキュリティーについては、どういうものかぜひ見たいと思っていますが、市のほうでどのような方針でやっているのかというのは、勉強させていただきたいなと思うんですが。

事務局　事務局です。セキュリティー面というのは、例えばホームページが攻撃されないように対策が練られているですとか、そういったところで……。

富田委員　はい。ＳＮＳに関しても幾つか既にやっていらっしゃるので、どういう安全なやり方をしていらっしゃるのかなというのが、全然、実際私もアクセスしていないのでわからないんですが。

西川議長　じゃあ、それはまた、次回ご説明いただけますか。

事務局　わかりました。

西川議長　よろしくお願いします。

佐々木委員　佐々木です。今、市の皆さん職員が使っているパソコン関係は、全部ネットから直接じゃなくて、ワンクッションで入ってきた、市の情報が外に漏れないようになっているのと、それからＵＳＢとか、ディスクとか、ウィルスが乗っているものが使えないような仕掛けになっているんですね、全部。その上でこの部署が管轄して、ホームページとかやっておられるので、簡単に個人情報が抜けてしまうとか、そういうことにはならないような仕掛けはつくられていますよね。たまたま私がボランティアみたいなもので、ＬＩＮＫくにたちのときにパソコンを使わせてもらったら、私だけ単独のパソコンを使わせてもらって、市のパソコンはデータとか情報のやりとりの部分で、一々面倒くさいんだけど、直接できないんですね。私が預かった単独のパソコンにその情報をもらわないと、市のパソコンにはつなげられないような仕掛けになっていました。

だから、そういう面では、かなりセキュリティー的には、市のあらゆる個人情報が抜けないように、漏れないように、外部からの攻撃を受けないようにはされている。ですから、ホームページ関係もそこの担当部署がやっているので、かなり高いレベルには。

事務局　事務局です。パソコン自体にウィルスを取り込まないようにですとかは対策を、市の中でルール事が決まっていまして、富田さんがおっしゃるのは、例えばＳＮＳで市が持っているアカウント自体が乗っ取られたりとか、そういうことの対策の話ですよね。

富田委員　はい。ですね。そういうのもあります。

事務局　そこは、すぐにはわかりませんので、次回でお願いします。

富田委員　さらに、炎上しないように、どういう運営しているかとか。まあ、してないから。

佐々木委員　炎上は、したらしたで、しないようにという方法はない。とめようがない。炎上しちゃったら、しちゃったで、それを傍観するしかない。

西川議長　まあ、それは……。ちょっとそれはまた次回、確認してください。

佐々木委員　それから体育館の予約システム、ああいうのは音声読み上げが入っていますよね。市関係のものでもそれなりの対応をとっているところもある。だから、目の見えない人のために若干の考慮はされているものもあります。

西川議長　じゃあ、すみませんけれども、次回お願いしたいと思います。
　議論を戻したいと思います。
　とりあえずここに書いたような、さっき説明しましたけれども情報を得ていない人に対する意見と、情報を得ている人に対してどういうことをしていったらいいのかという意見と、こういうふうにまとめて列挙いたしました。
　まず最初に、ごく簡単に書いたわけですけれども、ちょっとこれでは意味が通じないとか、あるいは前回言ったのに漏れているじゃないかとか、ご意見があればいただければと思います。

富田委員　富田です。①は、利用していない人が何％いるという。その中に、実は生涯学習的な学びをしているのに、生涯学習だとわかっていなくて参加している方も「参加していない」と答えているのもあるんじゃないかというので、ある面で生涯学習の宣伝といいますか、生涯学習はこんなもので、皆さんやっていますねみたいなものを伝えていくのも必要かなという意味で、申し上げたと思います。

西川議長　だからもう少し、生涯学習に接している人というのは率が高くなるんじゃないかということですね。実際に意識しないで使っている人まで含めるとすると。

富田委員　逆に、十分活動なさっているのに、生涯学習だと思っていないという方がいるんじゃないかなと思ったんです。そうしたら、案外多くの人が生涯学習をやっていらっしゃるという結果が、もしかしたらあるのかなということです。

西川議長　はい、わかりました。

丹間委員　丹間です。私も富田委員の意見と重なるものを、②で出させていただきま

した。資料では主語が抜けているんですけど、市民一人一人、ご本人がこれが生涯学習だと思っていないことも、実は生涯学習のいろいろな取り組みの中でできるよということを、私たちないし市が伝えていくというような、そういうことだと思うんですね。

特に、今、インターネットでも検索するとき、どういうキーワードを入れて検索するかで、自分が得たい情報にたどり着けるかどうか、違ってくると思うんですけれども、何かもやもやと新しいことを始めてみたいとか、国立のこの地域で誰かと少しつながってみたいとか、そう思った人たちが何という言葉で調べればいいのかなといったとき、生涯学習というキーワードになかなかたどり着かないんじゃないか。それは本人にとってももったいないし、地域としてももったいないことなので、「それも生涯学習だよ」というふうにうまく伝えていくということを、ぜひしたいなという意味がこの②です。

西川議長　ありがとうございます。

倉持委員、お願いします。

倉持委員　倉持です。自分が先月発言した中身をほとんど覚えていないんですが、(倉)というところだけでもチェックしたんですけど、③は意味が通じないので、何を言ったかなと想像するに、多分ですけど、どれだけ情報をいろいろなツールで発信しても、その人の関心やレーダーの張り具合によって、キャッチしたりしなかったりするということを、言いたかったと思うんですけど。それを何てまとめましたっけ。もう二度と再現できないんですけど、何でしたっけ。

見たときに、すぐ事務局にこういうことですよねって、送ったんですけど。自分がメールしたことすら、もう思い出せない。

西川議長　「情報がきっと皆さん、先生方のご家庭にも、市報やいろいろなものが届いているんだと思うんですよね。でも届いていないとおっしゃることは、やっぱりまだレーダーに入っていない」。

倉持委員　それを端的にまとめていただいたんですけど、さらに意味が通じるようにすると、情報をいろいろと発信しても、関心によって……。意味は伝わりますか。

佐々木委員　わかりますよ。情報の方向を向いてなかったら、来ませんからね。

倉持委員　そうです。よく聞くのは、定年退職した後に市報をすごく見るようになって、こういうのを見るようになって、こんなにいい講座があったのかと知る。それまでだって、ずっと発信はしてたんだけど、手にとっても目に入らないみたいなことをよく聞くので、それをレーダーという言い方をしたんですけど、これ、日本語としてちょっと意味通じないなと思って。一言でまとめ直してきたはずなんですけど、また忘れてしまって、すみません。

「発信しても、関心によって受けとめ方が違う」ぐらいにまとめていただければ。

佐々木委員　ちょっといいですか。私たちも、前期とかには、お金のこととか置いといて、生涯学習とは何かというのを、他市はどうしているんだろうというか、ほかの日本中で生涯学習とは一体何をやっているのかというので、生涯学習という名前でいろいろなところを調べたんです。で、前にいられた先生はドイツとかの例を挙げられましたけど、日本に限らず、どこかいいところがあったら

目指しましょうねなんて、そんなので、簡単にできるやつだったら、取り組めたら取り組んでもらうように提案したらどうかというような趣旨だったんです。ですから、金のことは置いといて、やれるか、やれないかも、案外、ちょっと工夫したらもしかしたら簡単にやれるんじゃないのというような意味で、どのレベルまでやるかまで、こんなことをほかはやっているって、いっぱい集めたんです。そうしたら、最先端の人工知能から何から、いろんな国立でやっていないことがいっぱい挙がってきちゃったけど、それが全部食べられるわけじゃなくて、全部手に取れるわけじゃないもんですから、その中からいろいろなものを選ぼうとしたとき、国立の人はそんなもの求めないよというような意見で、あんまり押しつけてくれるな、よそと同じように金太郎あめにしてくれるなとか、強制的に洗脳するようなことはやめてくれとか、いろいろな意見も出たし、我々は我々で、情報が届いていない人に何とか届けようじゃないかということで、そういう目でものを挙げていったわけですね。

最終的には生涯学習とは何か、本当に生涯学習って、みんなが情報が来なくて困り果てているのというようなことになったとき、そういうふうだったら、誰かに泣きついてでも、市に訴えてでも、飛びついてきてでも誰かに聞くでしょうねってなるし、自分がわからなかったら、若い息子や娘さんがいれば携帯で何でも見られるし、私が教えたように、小学校１年生の子が音声認識で携帯をいじり回して使っているとか、情報の発信の仕方とかとり方とか、誰がどう困っているのかとか、その辺が全く見えない中で、ずっと我々は模索していると、いつも。また今期も同じように、誰が困っているのか、その少ない人たちは何をしようとしているのか、欲しがっているのか、それとも要らんと言っているのかということもわからんし、実際はもっと、生涯学習と意識しないで使っているんじゃないのというご意見もありますけど、目の見えない方や耳の聞こえない方や、パソコンや何かもしょうがいで手が動かない人、いろいろな方がいるのもわかるんだけど、本当に生涯学習として私たちは何をしていくかというのが、はっきり筋が見えてこないですよね。そしていつもその中であがいている感じがするので、これが何かもやもやしているところがありますよね。

西川議長　どうもありがとうございました。

要するに誰を対象に発信していくのか、それはまさに、ターゲットを誰に定めるのか、前回、その話を今回しましょうと言いましたけれども、まさにその話になってくると思います。

ここに書いてある表現は、これで最終的な報告書をつくるわけじゃないですので、これはとりあえずこのままとさせていただいて、後でまた修正はしますけれど。

次に、今、佐々木委員から出た、じゃあ、この情報を得ていない人に得てもらうというふうにしたとき、そのターゲット、対象は誰になるのか、誰に対して情報を提供していくのか。この辺を少しイメージする議論に移りたいと思います。

情報を得ていない人といった場合、どんな人が入ってくるでしょうか。

富田委員　前期の議論がわからないで言っているんですが、私は後のほうで、多様性を大事にといった文脈は、公民館だより、社協だより、もちろん市報で、社協さんも公民館も独自の、自分たちなりの発信の仕方をしていて、表現の仕方が違うと思うので、多様性を大事にしたいという気持ちもありますと。それで、ホームページで全体、一元化といったとき、そことどういうふうに関係を考えるかなというところの問題提起だったんですが。

そうしますと、今それぞれ、市報と一緒に配られるのを見てみて、こんなに

いいことがあるのに届いていなくて、参加していないという方で、全戸配布で、それがばらばらに来て、例えば３つ見るのが面倒くさいとか、３つよりもっとあるかもしれない、それがホームページで、全部一緒にうまく見られたらいいなということが、こういうのがあったほうがいいという理由の１つだったのかなと類推しているんですが。

届いていないというとき、先ほども言ったように、これは全戸配布しているんだから、来たら見ることできるんだけどなというところで、紙媒体は見ないという世代なり、何なりがあるのかという理由もあると思うんですが。あと、届いていないという、別の部分で何なんだろうと、私はなかなか考えられないんですが。

例えば、学習と名がついたら、絶対に近寄りたくないとか。

事務局　事務局です。前期の話となりますと、計画に書かれていることに関してのお話かなということで、事務局のほうで少しお話しできたらと思います。

学習情報の収集、発信の基本目標については、２つの重点施策を定めていまして、１つ目が生涯学習情報の集約、２つ目が多様な手段での情報発信、この２つになっております。生涯学習情報の集約に関しましては、例えば市の中であっても、公民館でやっている事業、図書館でやっている事業というのは、多分ホームページで見ようとしたとき、それぞれのページに行かないと見られませんので、ホームページ上の話ばかりで恐縮ですけれど、生涯学習に関する情報という一つの統一的なページがありませんので、探しに行くんじゃないかという議論のもとに、この重点施策が出てきております。

もう１つの多様な手段での情報発信ですけれども、これは集約した生涯学習に関する情報の発信に当たっては、ウェブサイトとかＳＮＳに関して、市のほうで発信が弱いというご意見をいただいたこともありますけれど、それらも活用していきますと。ただ、それと同時に、ウェブサイトとかＳＮＳを見ないという方もいらっしゃいますので、紙媒体も含めていろいろな、多様な手段で情報を発信していくことで、いろいろな方に届いていくのかなと。

そういうことで、この２つの重点施策が生じたのかなというふうに、前期の計画策定の経過を実際に見てきまして、そういうふうになってきたのかなと思っております。

西川議長　はい、倉持委員。お願いします。

倉持委員　倉持です。さっきの富田委員のお話、私の③のこととともちょっと関連するんですけれど、市報や公民館だよりやもろもろ、届いていても手にとらない、読まない、目に入らない、それは理由はそれぞれ、忙しいだったり、関心がないだったり、いろいろだと思うんですけれども、全戸配布されているということは非常に重要で、貴重なことだと思いますし、情報保障がされていて、全ての住んでいる人たち、新聞を取っていようが、取っていまいが、ちゃんと届くというのは、やっぱり継続すべきことだと思うんですけど。

一方で、紙でバーッと目を通さないと、なかなか自分が必要な情報までたどり着かないという問題もあるのかもしれないという議論もあったりして、生涯学習から探す人もいるかもしれませんけれど、例えば今子育てに悩んでいる、その子育て支援というところから探す人もいて。そうだとすると、自分の知りたい情報を得られるようにするということでいうと、例えば検索でいるとか、この日に行きたいとか、この場所でやりたいとか、そういう探し方ができるときに使えるようなもの、今言ったのは、基本的に自分から動いているパターンなので、議論はもう少し、そうでない人たちもいるかもしれないですけど。

じゃあ、そういう人たちってどういう人たちなのか、ターゲットと考えると、もちろん市民、皆さんということなんですけど、何か特徴的なというか、より必要なターゲットがどこだろうということだと思うんですね。１つは、高齢層というかシニア、孤立を避けるために、シニア層のターゲットっていうのも考えるといいですよね。

もう１つ、国立はしょうがいを持つ方たちの学習ってすごく盛んで、全国からも注目されている公民館の実践なんかもありますから、そういう特徴的なというか、しょうがいを持つ人たち、同時にそれは持たない人たち、ともに学ぶ機会というのもあると思うんですけれど、そういうターゲットの絞り方。

あるいは若い世代。若者。若いといっても子どもから、二、三十代の若者まで入ると思うんですけれども、そういう若者世代というんでしょうか。市報とかあんまり、隅から隅まで読まないような、しかし交流や学び、つながりを求めているような、生涯学習をまさに求めているようなターゲットとかという考え方は、幾つかできるんじゃないか。

今のはあくまで例なんですけれども、できるんじゃないかなとも思います。

以上です。

西川議長　ありがとうございました。

笹生委員。

笹生委員　笹生です。今すごく、皆さんのお話にインスパイアされたことを勝手にしゃべってしまうんですけど。まず、市報が全戸に届いているって、本当にすばらしいことですので、それは間違いなく継続すべきということは、倉持委員と全く同意見です。ただ、それで、もっとほら、見てくださいというのは、かなり難しいですし、先ほどお話もありましたけど、ある意味でおせっかいという場合もあってしまう。なので、そちらに目を向けさせるのは、現実的に結構難しいかなというのが、まず個人的な意見の一つです。

２つ目としては、ちょっと私自身の話をさせていただきたいんですけど、まさにカテゴリーの話なんですが。私は子育て世代の親でして、国分寺に住んでいるんですけど、夏休みなんかは本当に毎日、何していいか苦しかったです。子どもは毎日家にいるので、きょうはプールに連れていって、明日はプラネタリウムに連れていってということで、非常に苦労している中で、国分寺市の市報はものすごく助かりました。きょうは星空の観測会があるとか、国分寺高校のレゴ部が遊んでくれるとか。レゴ部っていうのがあるんですよ。そういう情報が断片的に入ってきて、ポイント、ポイントでものすごく助かりました。

ただ逆に言うと、それポイント、ポイントでしかなかったので苦労したという点もあります。つまり、私としては、今の倉持委員の話に乗っかりますと、子育て世代の親というカテゴリーが欲しいなと思います。子ども向けのプラネタリウムに参加した人は、実は今後はホームページのここを見れば、似たような情報、あるいは先ほど富田委員もおっしゃっていましたけど、同じような場所でこんなことがありますということが、一回入り口に入った人に優しくしてほしい。そちらのほうが簡単ですし、やりようがあるんじゃないかと思います。

最初の話とまとめますと、市報を一切開かない人に無理やり開かせるのは相当ハードルが高いですが、一度開いて断片的にでも参加した人に対して、もう一回、もう一回と行きやすくなるような施策、これは比較的簡単、予算もあまりかからずに考えることができるのではないかと、私は考えます。

すみません、自分の話ばかりでしたが、以上です。

西川議長　ありがとうございました。とても具体的で、わかりやすいご意見だったと

思います。笹生委員の実感から出たご意見かと思います。ありがとうございました。

確かに、前回の、市で議論したときのペーパーの中にも、市報は高齢者と子育て世代、ホームページや子育て応援アプリは閲覧が多いということも書いてありまして、まさにそれは今、笹生委員の話をつながってくると思います。確かに、現実的な統計をとっても、そういう人たちのアクセスは多いですし、やっぱり必要とする人が多いのだろうということは想像できると思います。

ほかにご意見、もしあればお願いします。

丹間委員　丹間です。私も今の笹生委員の子育て世代の話を聞いて、本当にそうだろうなというふうに共感しました。でも理想的に考えれば、こういう生涯学習の情報を伝えなくても、親同士がつながっていれば、「今度ここでこういうレゴ部の活動があるらしいよ」とか、「そもそも夏休みどうする？」みたいなことになって、こちらが一生懸命発信しなくても、何かそういう生涯学習の場に足を運んだりということはできる。でも、それはやっぱり理想だろうなと思ったとき、情報を得ていない人というのは、もしかすると人とのつながりとか、地域とのつながりという部分が薄かったり、あるいは十分つながっていなかったりという意味で、つながりというのが一つキーワードかなと思いました。

それには２つあるかなと。１つは他者とのつながりがないという人たち。それはつながりを自ら持ちたくないという場合もあるんですけど、持ちたいけど持てないという場合もあって、それが恐らく言語とか文化といった意味での外国人の方々、あるいは先ほど倉持委員からもお話がありましたけれども、しょうがいのある方、しょうがいがあることによって他者とのコミュニケーションというところにハードルがあったりする。それから、近年ですと働き方とか生き方で、そもそもそんな人とつながっていられないよということもあるわけですから、生活の仕方でのつながりという部分は、まず他者とのつながりというのが一つあるかもしれない。

生涯学習あるいは学習というのは、個人が学びを自分の中に蓄積していくということだけじゃなくて、他者と自分をつなぐところに学びって生まれてくるというふうに考えますので、そういう考えからしても、他者とのつながりというところに情報を落としていくような、そんなイメージが一つあります。

もう１つは、地域とのつながりということかなと。若者にしてもそうですし、市外で働いて通勤時間が長い方も、忙しい方もそうだと思うんですけど、この国立という市とかお住まいの地域とのつながりが希薄な方というのも、ターゲットとしてはあるかなと。つながりというのがキーワードに、自分の中では考えたところです。

西川議長　ありがとうございました。子育て世代だけじゃなくて、外国人とかしょうがいしゃ、そういう他者とのつながりを求めている人たちがターゲット、対象となるだろうというお話でした。

ほかに、ご意見があれば。苫米地委員、いかがでしょうか。

苫米地委員　情報を得たいと思う人には、積極的に届けたいと考えています。一方、情報を得たいと思っていない人に、無理して届けなくてもいいのではないかとも思っています。だから、情報を得たいと思っているけど、言葉の壁がある外国の方をターゲットに、また、コミュニケーションがとれない方をターゲットにするという考え方をするとわかりやすいのではないかと思います。子育て世代の方には、その世代に合った情報の出し方を提案できるといいのではなないかと思っています。

西川議長　ありがとうございます。
　　石居委員、いかがでしょうか。

石居委員　１つは、初めのほうの議論のかかわりで、１）の①、②あたりのところで、生涯学習と意識せずに生涯学習をやっている人もいるよねというのと、その逆ということだと思いますが、思われていないことを生涯学習というふうに、あなたのやっていることは実は生涯学習なんですよというふうに伝えていく、あるいはそういうふうにひもづけていくというのも大事かなと思うんですが、先ほど富田委員の、学習という言葉だけでもう拒否しちゃうのかなという、そういう疑問とのかかわりを見ると、やっぱり生涯学習って結構意識の高い言葉だというふうに僕は思っていて。そういう意味でいうと、やっていることが生涯学習の枠に、こんなことも入っているということをきちんと、少なくとも生涯学習の情報を取りまとめて発信しようというとき、どこまでが生涯学習なのかということを、内側できちんと枠を決めて把握しておくことは大事だと思うんですけど、発信するときにそれは生涯学習という看板のもとに発信される必要はないと想うんですよね。

例えばポータルサイトを仮につくったとして、それが国立市生涯学習ポータルサイトではなくて、もっと違う見せ方のものとして発信していくことが、多分今届いていない人に少しでも届く、あるいは自分のやりたかったことがこんなところにあるんだというふうに知ってもらえる、一つのきっかけになるのかなと思いましたというのが１つです。

もう１つは、誰に届いていないのかの逆で、誰に届いているかの一例なんですけど、たまたま僕、きょう配られている公民館だよりにも載せていただいているんですが、「あの頃「くにたち」で…」という、公民館と図書館と博物館が共催でやっている地域史シリーズの、６回の連続講座の冒頭２回を担当させていただいて、１回目が先週で、２回目が昨日だったんですけど、そのアンケートをきょう返していただいていて、あまり具体的なことをここで言ってはいけないのかもしれないので、ざっくりとしたお話になるんですけど。

この講座を何で知ったのかという質問に対して、圧倒的多数が公民館だよりなんですね。ほかにチラシ、ポスター、ウェブサイト、新聞、口コミ、その他とあるんですが、圧倒的に公民館だより。この講座は幸い、受け付けを始めてほどなく締め切りになったということで、すごく反響がよかったというふうに伺ったんですけれど。

参加回数の内訳を見ると、今回が初めてというふうに答えられている方は２割くらいの数字じゃないかと思います。そういう意味では、もう公民館を使っているし、情報は紙媒体、最初から公民館とコネクションがあるし、そのつながりの中で日々を暮らしているような方が選んでいるということだと思うんですね。

なので、そうではない人たちにもどう届けるか。これ、逆に言うとつながりをつくっていくというか、既にある、ある種のつながりの中に新しく入っていくって、すごく勇気が要ることだと思っていて、そのきっかけをつくるということも含めて、どういう人に、どういうふうに情報を届けるかということを考えていかなきゃいけないんじゃないかなと、改めて思いました。だから具体的に何がどうできるって、すぐ出てこないんですが。

富田委員　ちょっと議論の見当違いかもしれないんですが、一つの例を出してみますと、公民館で認知症を学ぶ講座をやっていて、それの毎回タイトルを工夫するんですが。認知症っていうのをあまり出さないで、「暮れなずむ脳」って出した

ら、新しい顔がいらっしゃるというか、きちんと背広を着た、かなり年配の男性たちが結構並んだんですね。認知症というといらっしゃらないのかもしれないけれども、タイトルで、あなたも来ていいんですよみたいな、決して自分は認知症じゃないと思っていらっしゃる方もクリアできるような、そういう経験があったので、ちょっとお話ししておきます。

西川議長　ありがとうございます。要するに、どういう表現で発信をするのかというのは、意外と重要だというお話ですね。
　ほかにいかがでしょうか。

丹間委員　丹間です。つけ足しみたいになってしまうんですけど、先ほど石居委員のお話、非常に共感いたしました。石居委員は生涯学習というのが意識の高い言葉だとおっしゃいましたけど、私もさらに言うのであれば、排他性もあるのかなというふうに思いました。情報が届いているはずなのに、届いていないっておっしゃる方は、もしかしたらチラシを読まないとか、広報紙を見ないというだけじゃなくて、捨てちゃっているという、それぐらいのこともある。自分もそうですけど、家に帰っていっぱいポストに入っていたとき、これ、自分関係ないなっていうふうに思うこと、たくさんあるんですね。だからそういうことも踏まえた上での発信、生涯学習という言葉がもしかすると排他性を持っているんじゃないかということは、考えていかないといけない。
　同じく富田委員がおっしゃった認知症のことも、きっとそうなんだと思うんですよね。なので、既にあるつながりに、どう入っていくのかということですかね。
　非常に手前みそになってしまうんですけど、日野市の公民館で大学のゼミの活動をしているんですけれども、未利用者の人にぜひ公民館に来てほしいということで冊子をつくったんですね。最初は「ようこそ公民館へ」という冊子だったんですけど、学生が、それだとかえって人が来ないんじゃないか、自分は関係ないと思っちゃう人もいるんじゃないのかということで、実際には「ようこそ地域のリビングへ」というような言葉に変えて、あえて公民館という言葉を隠して、出さないようにすることが、未利用者へのアプローチになるんじゃないかという結論を導きました。
　生涯学習という言葉も、タブーにする必要はないと思うんですけど、そういう性質を持った言葉だということは、我々の中では共有しておきたいなと思いました。

西川議長　ありがとうございます。どうやって表現をするかという問題ですね。
　笹生委員、お願いします。

笹生委員　今の富田委員の認知症のくだり、そして丹間委員の地域のリビングの話、すごく私も共感できました。そう思うと、じゃあ、既存の国立市の生涯学習情報の発信はどこなんですかというと、イベントカレンダーになっていますよね。これはこのままでよろしいのではないか。つまりポータルサイトをつくるという話も先ほどありましたが、当面は今、この市のホームページに載っているイベントカレンダーという表現、私は非常にいいのかなと思いますので、このイベントカレンダーというものをそのまま充実させていく。で、気づいたら実は生涯学習活動だったというようなこと。そうすると、ひょっとするとアンケート調査の１８．９自体は改善されないかもしれません。生涯学習だと気づかない人がいますので。それでいいのではないかと、個人的には思います。
　このイベントカレンダーというのをそのまま充実させていけば、イベントだ

というつもりで行けば、行くほうも行きやすいと思いました。

西川議長　今おっしゃったイベントカレンダーというのは、ホームページのですか。

笹生委員　そうです。ホームページのイベントカレンダー。

西川議長　今と、どういう人に対して発信をするのかということ等で、その人に対してどういう表現で発信していくべきなのかという話もちょっとまじりながら進んでいる感じがするんですけれども。

どういう人をターゲットにするのかというところに少し話を戻していきたいと思いますが、どういう人に対して発信をするのかということと、そのどういう人というのは、どういうやり方で発信していくのか、さっき笹生委員がおっしゃったように、外国人に伝えるためにはもしかしたら、日本語じゃ駄目かもしれないし、日本語だとしてももっと簡単な日本語にしなくちゃ駄目かもしれないし、何か発信の仕方みたいなことも考えなくちゃいけないですよね。

年をとった方、若い方に向けるのも、年をとった方にはアンケートの結果も出てますけれども、やっぱり紙媒体のほうがいいだろうと。若い人にはネット、ＳＮＳがいいだろうというふうになると思います。だから、具体的な提案にしていくとき、こういう人に対して発信するというだけじゃなくて、こういう人に対してはこういうメディア、こういう媒体で、こういう表現でやっていくべきだろうというところまで、提案していく必要があるんじゃないかと思います。

そういう観点から考えて、どういう人たちにどういうふうな発信をしていったらいいのか、今、ターゲットについてはもう話は出ていますけれども、このターゲットの人たちにどんなやり方で出していったらいいのか、少しご意見をいただけないでしょうか。

富田委員。

富田委員　自分が若者でないので、大学の先生もいらっしゃるので、その情報収集の仕方というか、紙は見ないとか、ウェブ関係ではどういうふうに情報を得ているのかというあたりを教えていただけたらと思うんですが。それぞれですかね。

西川議長　大学でということ。

富田委員　生徒さん、学生さんたちを見ていて。

石居委員　最初にお話ししたような、博物館教育論というのをやっているんですけど、博物館教育論などで、いかに告知という点で博物館という業界に課題があるかという話を割と繰り返しして、そういう中でコメントを出させると、やっぱり発信の仕方がうまくないとか、自分たちの実感として、こんなことをやっていたと全く知らずに、会期末近いところまで知らなかったとかいうことを実感としても持っているんですけれど、じゃあ、どうしたらいいだろうかというと、ツールとして彼らが今出してくるのは、ＳＮＳの有効活用ということを言っていて。それはいわゆる主催者側が発信するだけではなくて、ＳＮＳの強みというのは行った人からの二次的、三次的な情報の拡散だと思っていて。そういうところに、博物館の展示という性格も、会期が長くていろいろな人が行って、それが拡散されるとまた次の人が行く時間が残っているという、そういう意味ではちょっと生涯学習全般に当てはまるものではないんですが。

やっぱり彼らが、もっと活用すればいいというときに一番出してくるのがＳＮＳというのは、ここ数年やっている限りでは僕は印象に残っていますが、多

分皆さんそれぞれ違うご経験がおありかと思うので、一意見です。

西川議長　これは、国立市で議論した中で出てきている意見、課題として書いてありますけれども、市報を見ることが少ない、若者や働く世代の層の方にも情報を届けるための工夫が必要であるということがありますね。市報を見ていないということですから、きっとネットなどの発信で伝えていく必要があるという意味じゃないかなと思います。

ターゲットといったとき、若いとか、若くないとかいう切り口もあるんですけれども、国立市のこのアンケートを見ていくと、国立市在住で昼間は全く国立市でないところに勤めていて、夜、寝るときだけ帰ってくる、忙しくてなかなか情報に接することもないという人たちも、中にはいますよね。そういう人たちに対してはどういうふうにしていったらいいでしょうか。恐らく、別の町に通勤している人たちは、接することもなかなかないかもしれないし、日常的にも、子育て世代は別かもしれませんけれども、参加しようと思っても参加するほど暇じゃないかもしれないし、そういう人もいると思うんですよね。

子育て世代、高齢者、しょうがいしゃという人たちには発信していくべきだろうという意見が出ましたけれど、そうじゃない人たちに対しては、どういうふうにしていったらいいでしょうか。当然、発信はするんですけれども、強く働きかけるような発信の仕方をしていくべきなのか、どうなのか。

苫米地委員　苫米地です。その話に正対しているかどうかよくわからないのですが。例えば、都内に通勤していて国立駅を利用している人たちが、どこで情報を得るかと考えたら、電車の中や駅で待っているときに、目に飛び込んでくることが多いのではないでしょうか？そのような場所に大きく「あの頃「くにたち」で…」っていうポスターや電光掲示のようなものがあったら、たくさんの人へのＰＲになると思います。

公民館だより等で広報されているこの講演会は、今、初めて私の目に留まりました。このことについての広報をされている方には怒られるかもしれませんが、終わってしまった第２回のお話はとても聞きたかった内容でした。大変失礼なことをいってしますのですが、公民館だよりを中心にしたＰＲでは、興味をもっている方に届きにくいのではないかと思っています。

だから、駅で待つ人やバス停で待つ人をターゲットにしたＰＲがいいのではないかと考えます。費用のことは全く考慮に入れていないので申し訳ありません。おもしろいイベントが、知りたい人に届けることができる手段の一つになると思っています。

今回の「あの頃「くにたち」で…」の企画は、最初から３０人程度の参加を考えた企画のようです。ですから、この企画は、多くの市民に広報しなくてもいいことなのかもしれません。しかし、たくさんの人に来てもらいたいという企画のときには、できるだけ大きなポスターや電光掲示板を駅に出したり、思い切ってアドバルーンのようなものをあげたりしたらいいのではないか、と思います。

西川議長　単に市報を置いておくだけじゃなくて、ポスターを張ったり、目立つようにという。

苫米地委員　それもＡ４版のチラシではなくて、このようなとても大きいポスターを張ってもらうとか。そうすると、もっと目立つし、情報が届きやすくなるのではないかと思います。

以上です。

西川議長　ありがとうございました。
　じゃあ、時間もあれですから、２つ目の「○」に書いた、情報を既に得ている人に対して、まだ不十分な人もたくさんいるので、ＳＮＳを充実させるとか、イベントカレンダーをわかりやすく伝えていくとか、こんな話も前回はいろいろ出ていたと思います。これについてはもう具体的に、こういうふうにするべきだ、ああいうふうにするべきだ、前回も出たようなことを羅列しながら、提案していくということになるのかなと思いますけれども。
　ここのところで何かご意見のある方がもしいらっしゃれば、お願いしたいと思います。

丹間委員　丹間です。すみません、１点だけ。④で気張らず投稿というふうに書いていただいたんですけど、ぜひ強調できたらいいなというのは、前回の議事録には１７ページに残っていますが、リアルタイムというキーワードも大事かなと思っています。やっぱりＳＮＳの特徴というのは、ホームページのミニチュアではなくて、リアルタイムに今、講座やってますよとか、こんな事業がもうすぐ始まりますとか、きょうはこんな感じでしたというのがすぐわかると、臨場感もありますし、何より参加できなかった人もわくわくした気持ちを共有できるという意味では、リアルタイムというキーワードを残していただけたらなと思いました。

西川議長　ありがとうございます。それは後で加えさせていただきたいと思います。
　ほかには何かあるでしょうか。

苫米地委員　苫米地です。国立市のＬＩＮＥに登録したことで、いろいろな情報を得ることができました。私は登録してよかったと思っています。公民館だよりを引き合いに出してしまい申し訳ないのですが、いつも届いている公民館だよりをあまり見ていません。ホームページで調べれば、その他の情報も見付けることができるとは思っていますが、これがお勧めだよというような情報がタイムリーに入ってくるＳＮＳは、かなり有効だと感じています。ツイッターも同様なのかもしれません。行ってみようかなというきっかけを与えることができるＳＮＳの活用には、かなり力を入れてほしいと思っています。
　併せて、何とかたくさんの人に登録してもらう方法や工夫についても考えたいものです。

笹生委員　笹生です。先ほどの話とも重なるんですが、まさにＳＮＳは人に情報を届ける点で非常に有効なツールだと思うので、ぜひ利用すべきだと思うんですが。一方で、私はメーリングリストとか登録するのがあまり好きじゃなくて。というのは、要らない情報もどんどん流れてくるという。ですので、例えばツイッターアカウントをつくるのであれば、国立市、高齢者って何かよくないかもしれないですけど、高齢者用のアカウント、子育て世代用のアカウント、しょうがいしゃ用のアカウント、もちろん全部の情報が欲しければ、全部登録すればいいわけで。そこをまさにセグメント化して運用していく必要があるのかなと思います。

倉持委員　倉持です。前回の苫米地委員のご意見、印象に残っているんですけれども、きょう議論をしながら、こういうのって誰が発信するのか、紙媒体とウェブサイト、ホームページと、ＳＮＳ、運用の仕方が違うんじゃないかなと。ターゲットと情報の正確性、公共性、あるいは範囲の広さみたいなのとか、対象の細

やかさみたいなのは違うんじゃないかなと思うんですけど。
　ＳＮＳの発信を行政なり、施設なりがするのも一つのやり方、伝えたい情報を発信するという意味ではあると思うんですけど、今、議論にあるような細やかなニーズとかコミュニティーとか、ターゲットごとのということでいうと、発信するのは公的な立場の人じゃないんじゃないかなと。例えばそこに参加した市民とか、企画にかかわった市民とか、委員さんとか、もうちょっと……、まさにＳＮＳ的使い方というんでしょうか。かかわる人が発信する、あるいは参加した人が発信する。情報の正確性は落ちるかもしれないですけれど、より個人的な関心とか、状況とか実際の様子とかが伝わるというんでしょうか、そういう使われ方こそが、まさにこうものの魅力なんじゃないかなと思いました。
　ウェブサイトも考えなくちゃいけないなと思っているんですけど、既存の市のホームページだったり、あるいは生涯学習のポータルサイトって、結局活用されなかったり、情報を誰がどれだけ更新できるのかというのがすごく大きくて。初期にお金をすごく投資してつくっても、生涯学習サイトってうまく使われないというのが割と定説というか、これまでいろいろ伺った中ではあるんですね。それを更新していくためには、人がやっぱり必要で。フレッシュで必要な情報をどんどん発信していく。行政が企画した主催講座を発信するんだったら、行政なり手続きでできると思うんですけれども、生涯学習の情報の範囲を少し広げたい、発信する範囲を多様にしたいとなったときには、その情報発信にかかわってくれる人たちのところに、ボランティアなのか、双方向性なのか、ちょっと新しい力を入れていかないと、意味ある形で継続はしていかないだろうなというのが思うところです。今の時代に合った発信の仕方にならないとと思います。

西川議長　言ってみれば、いわゆるツイッターとするとフォロワーを増やして、そのフォロワーにどんどんリツイートしてもらうみたいな、あるいはリツイートじゃなくてもフォロワーがツイートしていくみたいなイメージなんでしょうか。

倉持委員　はい、それも一つはあるかなと思いながら聞いていました。

西川議長　そういう、支持者ですよね。協力してくれる人の何ていうか輪を、どんどん広げていって。国立市がやるんだけれども、そこにどんどん加わって、一緒に同じ現場を見ながら発信してくれる人を増やしていくというようなイメージですかね。

倉持委員　はい。多分その講座があるという情報は、その情報を得ている人とか不十分な人なので知っているかもしれないけど、自分にそれが向いているかとか、どんな様子なのかわからないでその一歩が踏み出せないんだとしたら、実際に行った人の声だったり、講座の様子の写真だったり、わからないんですけど、そういうもうちょっと具体の情報があることによって、得ている人や不十分な人に対して働きかけになるんじゃないのかなと想像してみました。

苫米地委員　苫米地です。２本立てみたいな感じでしょうか。国立市が伝えたいという情報は、ＳＮＳからの発信によって、みんなに届けることができると思います。また、届いた方もそれをみて、参加するか否かを選択することができると思います。一方で、ＳＮＳのコミュニティー力を引き出す方法を考える必要があります。会に参加した方からの情報を仕入れることができるようになるので、とても有効であると思います。しかし、情報の出し方にある程度の制限を書くる必要があるかもしれないとも考えています。

倉持委員　うん、何となく。はい。

苫米地委員　そのようにすることで、市が広く参加者を募る企画にも役立つと思います。

丹間委員　丹間です。今、倉持委員がおっしゃった参加者からも発信するということなのですが、市民同士で情報を出し合うというような、そんなイメージを持ったんですけど、例えば市民同士で伝え合うというと、市民委員というか、ＳＮＳを市民委員に登録した人がどんどん発信していいというアカウントを２本立ての１本としてつくるみたいなことって、できないんですかね。八王子市は今、それに近い取り組みをしていると思うんですけど、何かそういった参加者、特に先ほど公民館で常連さんが多いという話があったので、常連さんみたいな方とかで余力のある人に、現場をリアルタイムに取材もちょっとしてもらって、短い言葉でツイッターで発信する。そこに、そういう委員の登録とか支援とかを、市としては支えていくということですかね。

佐々木委員　すみません、佐々木ですけど。たまたまこれ、さっきいただいた東京都の一番後ろのページを見ていたら、「ＳＮＳ東京ルール」というのが書いてあって。みんながみんな意見を出し合うということになるから、下手したらあいちトリエンナーレじゃないけど、何か思想的なことをターゲットにした人が出てくると、大騒ぎになってしまうわけです。何らかの、社会常識的な範囲でのルールが見えてこないと、お互いに安心している間だけだったらいいけど、そこで先ほど炎上の話がありましたけど、けんか的な話になってしまったり、個人攻撃になってしまうとか、または思想やいろいろな違う意見の人同士の戦いのようになってしまったらまずいなと思うので。

　国立市としてのＳＮＳであるならば、どうあってほしいというのが何かなければまずいような気もちょっとしたので。たまたまこれを見たので。

西川議長　どうあってほしいというのは、具体的に。

佐々木委員　やはり思想的な、今、国立市の市民は、極右とか極左とかヘイト的な発言だとか、どこかの国を攻撃するとか、我々日本はあまりそういうことをしない国だけど、どんな人が来るかわからないとなったら、日本のことを嫌いな人もいるかもしれないし、国立のことが大嫌いな人もいるかもしれませんし。善意でよかれと思って、人種差別がどうのというようなことをおっしゃる方が出てくるかもしれないなと思うと、今、我々に足りないといったら、世界的な視野からしてみたら、白人や黒人、いろいろなことについても、生涯教育とはちょっと違うことかもしれませんけど、知識として、何がどうなるか。

　そういうところもどこかで線引きをしないと、誰でも皆さん発言できますよというのは、そういうリスクもありますねということですね。

西川議長　まあ、リスク管理の問題かもしれませんね。

佐々木委員　常識の範囲がある人しか発信しちゃいけないみたいに。

西川議長　リスク管理のための、きちんとした方針、指針、運用方針みたいなことをきちんと定めるべきだろうということでしょうかね。

はい。ありがとうございました。
ツイッターとかＳＮＳの話ばかりしているんですけれども、江角委員はどうでしょうか。前回、江角委員が接している方々にはどういう媒体がいいか、紙媒体がいいというようなお話を聞きました。情報を必要としている人にうまく伝えるためには、どんなやり方がいいと思われますか。

江角委員　江角です。やっぱり情報の欲しい方には伝えなければならないので、機器を使いにくい世代には、デジタルはちょっと難しいかなと思うので、やっぱり紙になってしまうかなと思いますし。そういう世代は時間に余裕がありますので、その情報を得るところには行く時間があります。公民館にも行けるし、図書館にも行けるし、市役所にも行ける時間というのはあると思うんですけど、そういう時間が生活の中にない世代というのもあるので、それはやはり、イベントカレンダーの充実とか、ＳＮＳの発信とか、利用しやすい届け方というのはあると思うんですけれども。
前回お話しした、情報より場というのは、そこに行くと子育て支援の情報を得られる場所が、もう少し身近に、子育てと仕事と両立されている方が大変多いので、そういう場に、先ほど苫米地先生がおっしゃったように、通勤の途中で見る場所があるとか、そういうのはチャンスを与えるというか、機会を与えるというので大事なのかなとは思いますね。掲示板も、板１枚で張られるよりは、もう少し工夫されて、そこには子育ての情報が載っているとか、場所とか、裏表あるわけですから、張り方もあるかなというのは時々感じることでございます。

西川議長　ありがとうございます。紙媒体や掲示板にしても、いろいろな工夫ができ得るということですよね。
どうもありがとうございました。この議論はそろそろこの辺で閉めたいと思います。
また来月も引き続き、このテーマでやっていきますので、きょう出された意見をもとに、もう少し最終的な報告に持っていけるような形で、また少しまとめ直したいと思っています。その段階でまたご意見をいただきながら、最終的なものにしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。
それでは、次の議題に移りたいと思います。事務局から、研修会の案内についてお願いしたいと思います。

事務局　事務局です。資料２をお手元にご用意いただいてよろしいでしょうか。
今年度の社会教育委員会連絡協議会の第２ブロック研修会の開催について、少しお話しさせていただきます。
開催日時でございますが、１０月２６日土曜日、午後１時３０分から４時までになります。場所は国分寺市が今回幹事市ということになりますので、ｃｏｃｏｂｕｎｊｉプラザのリオンホールで開催されます。
内容でございますけれども、第１部としまして一般公開もされます、国分寺市の活動報告、第２部としまして関係者のみで行われますグループワークとなります。詳細は通知文の裏面に開催要項がございまして、既に先週メールで送らせていただいておりますので、またご覧いただければと思っております。
今まで、各ブロックのさまざまな研修会についてメールでお知らせさせていただいておりますけれども、この第２ブロックというのは国立市が所属しているブロックになりますので、ぜひご参加いただければと思っております。
出席者の名簿を４日までに国分寺市にお知らせしますので、メールでも書かせていただきましたとおり明日までに、参加ご希望の方は事務局まで、メール

でも電話でも構いませんので、ご連絡いただければと思っております。
以上でございます。

西川議長　ありがとうございました。
この件に関して、何かご質問はあるでしょうか。
なければ次に移りたいと思います。事務局から、ほかに何かあるでしょうか。

事務局　それでは最後に、次回の日程の確認をさせていただきます。
次回定例会でございますけれども、１０月２１日月曜日午後７時から、場所は本日と同じ、第３会議室で開催いたします。
次回、何か各委員のほうで、例えば皆さんに配ってほしいというような資料等ございましたら、１５日ごろまでに事務局までメールなどでいただければと思っております。
以上でございます。

西川議長　どうもありがとうございました。
ほかに何か、言い忘れたこととかある方、いらっしゃいますか。
なければ、これで第５回の社会教育委員の会を終了したいと思います。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

――　了　――